

令和2年度 学校関係者評価報告書

大阪市立塩草立葉小学校
学校協議会

1 総括についての評価

本年度の学校の自己評価（最終評価）結果は、概ね妥当であるとする。学校協議会（書面開催）で示された運営に関する計画・自己評価（最終評価）や校長経営戦略支援予算決算見込み等の資料から、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴うさまざまな制約の中で、教育活動全般で尽力している。今後も、引き

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて解消した割合を95%以上にする。
- 大阪市小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

達成状況は、妥当であると評価する。

- 令和2年12月末校内調査において、学校で認知したいじめについて解消した割合は100%であった。
- 令和2年度の大阪市小学校学力経年調査（自校集計）における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合は、93%であった。
- 令和2年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数は、前年度より減少している。
- 令和2年度末の校内調査において新たに不登校になる児童の割合は、前年度より減少している。

年度目標：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上

- 大阪市小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 大阪市小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- 大阪市小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント以上増加させる。
- 大阪市小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目で、肯定的に答える児童の割合を、男女とも前年度より増加させる。

達成状況は、妥当であると評価する。

- 大阪市小学校学力経年調査は、結果返却が年度末にずれ込み、成果測定・評価ができないため、その他の目標等で総合的に評価した。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止によるさまざまな制約がある中で、体育学習を中心とした体力向上の取組やゲストティーチャーの招聘（夢授業、ブレイクダンスなど）、姿勢保持の啓発などを進めた。

3 今後の学校園の運営についての意見

今後も、子どもたちのために教育活動をさらに充実させてほしい。